

マヤプシキ

じゅんげつめつ き く
準絶滅危惧

か めい
科名 ハマザクロ

べつ めい
別名 ハマザクロ

がく めい
学名 Sonneratia alba



く ぶん
区 分 もくほんるい
木本類

ぶん ぶん
分 布 いりおもてしま しせいほくげん とうなん
西表島（自生北限）、東南アジア、アフリカ東部等

は かたち
葉 の 形 らんけい
卵形

は ふち
葉 の 縁 ぜんえん
全縁

は さき
葉 の 先 どんけい
鈍形

は しゅるい たんよう
葉 の 種類 単葉

は つきかた たいせい
葉 の 付方 対生

は き ぶん えんけい
葉 の 基部 円形

み しゅるい
実 の 種類

は な がくいろ しろいろ お
花・萼色 白色（雄しべ）

せつ
説
めい
明

マングローブ林の最も海側部分に生育します。高さ約10m位になります。地中から突き出した呼吸根（筍根）が特徴です。西表島では大原から古見までの東部地域に多く生育し、西部では数本程度が確認されているだけです。葉は両面で光合成ができる仕組み（等面葉）になっており、葉の先は鈍形です。実がヤマネコ（マヤ）のおへそ（プシキ）に似ていることから、マヤプシキといいます。また、実の中の種子がザクロに似ています。